

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）  
事業枠組の見直しについて（案）

1．目標

国内の幅広い層に対し、愛知目標の達成に資する具体的な行動を促す重点期間である「国連生物多様性の10年」において、生物多様性の主流化を目指し、愛知目標の達成にむけた各セクターの参加と連携による具体的な行動を推進

2．基本的考え方

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）は、国、地方公共団体、事業者、国民及び民間の団体の参加を促し、国内の様々なセクターによる生物多様性に関する取組を促進し、情報交換及び連携を進めるため、以下の事業を実施

- 1）愛知目標の達成のために有効な方針の検討
- 2）愛知目標の達成に向けた各セクターの活動に関する意見や情報の交換
- 3）本委員会の目的に合致する連携事業の認定
- 4）その他、生物多様性に関する社会の認識の向上に資する事業等の実施に係る方針の検討等

3．事業メニュー

以上を踏まえ、UNDB-Jは、以下を有効な方針として定め、当面、別紙の事業を主体的に実施

- 1）対象に応じた効果的な CEPA（Communication, Education & Public Awareness）活動の展開
- 2）多様なセクター間の連携の促進
- 3）地域の様々な活動の発掘と広報等
- 4）震災復興と生物多様性に関する活動の実施
- 5）都市と生物多様性に関する活動の実施

## 国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）事業（案）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）は、当面、以下の事業を主体的に実施

### 1．生物多様性全国ミーティング

- ・全国の様々なセクターが一堂に会して、生物多様性に関する取組を発表し、意見や情報を交換する場として、1年に1回程度開催

### 2．生物多様性地域セミナー、ワークショップ

- ・各地の環境パートナーシップオフィス（EPO）や青少年団体、大学等と連携・協力して、各地で地域セミナーやワークショップを開催

### 3．特別事業

- ・各年度においてトピックとなるテーマに関する事業を特別事業として実施

### 4．連携事業の認定

- ・国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）が実施する「にじゅうまるプロジェクト」の登録事業等の中から、「多様な主体の連携」、「取組の重要性」、「取組の広報の効果」などの観点から、UNDB-Jが推奨する事業を認定

### 5．推薦図書等の選定

- ・生物多様性の理解や普及啓発、環境学習にも資する図書、映像・音楽、各種グッズ等を推薦ツールとして選定

### 6．個別事業

- ・生物多様性に関して、様々な対象を想定しつつ、効果的な普及啓発活動を行っていくため、多様な個別事業を展開
- ・地球いきもの応援団、生物多様性リーダー、生物多様性キャラクター応援団、Iki・Tomo パートナース、MY 行動宣言、グリーンウェイブ、各種ツール・アイテム等の把握・評価・開発・活用（UNDB-J 推薦図書等）、広報誌の発行、環境教育教材の作成など、様々な主体への働きかけを実施

### 7．ウェブサイト等による発信

- ・UNDB-Jのウェブサイトやリーフレット等により情報発信を実施

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）  
平成25年度事業概要（案）

新規事業  
Iki・Tomo 推進事業  
【 】 Iki・Tomo 推進事務局

1. 生物多様性全国ミーティング
  - ・11/10に豊岡市で「UNDB-J第3回生物多様性全国ミーティング」を開催
  - ・11/9の「生物多様性自治体ネットワーク定期総会」、「生物多様性ミニフォーラム」、「生物多様性エクスカージョン」と連携して開催
  
2. 生物多様性地域セミナー、ワークショップ
  - (1) 生物多様性地域セミナー
    - ・生物多様性自治体ネットワーク構成団体に連携・協力を呼びかけ、「UNDB-J生物多様性地域セミナー」を3地域で開催(7/15 熊本県、8/10 富山県、12月愛媛県)
  
  - (2) 生物多様性出前講座【日本自然保護協会】
    - ・生物多様性の普及啓発を目的に、講師を派遣する座学タイプの出前講座を3地域で開催
  
3. 特別事業
  - ・国際生物多様性の日シンポジウム「三陸復興国立公園の創設から考える生態系サービスの強化と持続可能な地域社会の構築」(5/22：東京)において、UNDB-Jの活動を紹介
  - ・第1回アジア国立公園会議(11/13～11/17：仙台)において、UNDB-Jの活動を紹介
  
4. 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】
  - ・UNDB-Jが推奨する連携事業を9月(第3弾)と3月(第4弾)に認定
  - ・平成24年度に作成したリーフレットを活用して広報を強化するほか、UNDB-Jや各委員等から各セクターに働きかけ
  
5. 推薦図書等の選定
  - ・平成24年度に選定されたUNDB-J推薦「子供向け図書」(愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる100冊～)については、ブックフェアや読み聞かせ会など、様々なイベントとの連携により広報を実施  
4/29 みどりフェスタ(新宿御苑) 5/3～5/5 上野の森親子フェスタ(上野公園) 6/1～6/2 エコライフ・フェア(代々木公園) 8/7～8/8 子ども霞が関見学デー など
  - ・「生物多様性の本箱」の各作品を東北の小・中学校や図書館等に寄贈するなど、生物多様性に支えられる東北復興の支援を検討  
【日本自然保護協会等】 寄付協賛募集事業
  - ・UNDB-Jが推薦する映像・音楽等の選定を検討

## 6. 個別事業

### (1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

- ・地球いきもの応援団への新たな加入を呼びかけ
- ・地球いきもの応援団の中から、国民一人ひとりが生物多様性の大切さを理解して行動に移せるように先導する「生物多様性リーダー」を、セミナー等の機会を活用して任命
- ・生物多様性マガジン「Iki・Tomo(イキトモ)」において、地球いきもの応援団のメンバーから生物多様性に関する取組やメッセージを紹介

### (2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・キャラクター応援団への新たな入団を広く呼びかけ
- ・セミナー等の機会を活用し、UNDB-Jキャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが今後協力して普及啓発に取り組む「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施
- ・平成24年度に作成した缶バッジやシールを活用して広報を強化

### (3) Iki・Tomo パートナーズ

- ・UNDB-Jの活動の趣旨に賛同し、自ら行動する個人・団体が会員として参画できる仕組みを構築（Facebookの活用を想定）
- ・会員には、会員専用のロゴマークをご使用いただけるとともに、UNDB-Jの活動状況など様々な情報を提供

### (4) MY 行動宣言 5つのアクション【CEPA ジャパン】

- ・国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」の活用を広く呼びかけ
- ・5つのアクションの具体の取組に即して個人・団体を表彰するプロジェクトへの参画を検討
- ・シートの裏面に企業等の生物多様性に関する取組を掲載するなど、企業等とのタイアップ企画の実施を検討 UNDB-J タイアップ事業

### (5) グリーンウェイブ

- ・平成24年度に作成したリーフレットを活用して広報を強化するほか、UNDB-Jや各委員等から各セクターに働きかけ

### (6) 広報誌

- ・一般生活者を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo(イキトモ)」を3回発行し、委員や各セクター等に配布
- ・企業等の生物多様性に関する取組の掲載や、既存の小冊子等とのコラボレーションなど、企業等とのタイアップ企画を実施し、配布先を書店やカフェ等に拡大することを検討 UNDB-J タイアップ事業

## (7) 環境教育教材

- ・既存の環境教育に係る情報を収集した上で、モデル小学校との連携による、生物多様性に関する環境教育教材の作成を検討（映像教材、教師用マニュアルおよび生徒用ワークシート等）

- ・平成26年度は、モデル小学校周辺への展開を図るほか、ESD ユネスコ世界会議との連携も視野に入れつつ、引き続き検討を進め、教材の完成を目指す
- ・その後も、全国の小学校との連携による教材の作成を検討

## 7. ウェブサイト等による発信

### (1) UNDB-J ウェブサイト

- ・リニューアルしたウェブサイトにより、UNDB-J の活動状況等を発信

### (2) 生物多様性.com（仮称）【日本自然保護協会】

- ・市民を対象に、日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの構築に向けた検討を実施
- ・消費、教育、趣味など具体的な行動に結びつくようなコンテンツや、ポータルサイトとしての機能を充実させるための検討を実施

### (3) 広報ツール

- ・平成24年度に作成したリーフレットやブックマーク（東北の間伐材を活用）等を活用して広報を強化するほか、UNDB-J や各委員等から各セクターに働きかけ

## 8. 委員会等の開催

- ・5/23 に委員会を開催
- ・8月、2月に幹事会を開催
- ・5/20、8月、2月に運営部会を開催

## 【参考】

### (1) UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置
- ・事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施

### (2) 寄付協賛募集事業について

- ・事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施
- ・例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を東北に寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施を検討

### (3) UNDB-J タイアップ事業について

- ・企業等と UNDB-J がタイアップし、生物多様性の普及啓発ツール・アイテムを作成
- ・例えば、「Iki・Tomo」の発行については、企業等の生物多様性に関する取組を掲載する企画についても実施を検討（企業等は制作費等を負担、UNDB-J は生物多様性に関するコンテンツを提供するなど）

## 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

### 「生物多様性の本箱」の広報及び東北への寄贈について(案)

#### 1. 広報について

##### (1) これまでの取組

- ・3/12 に UNDB-J 子供向け推薦図書 103 点を「生物多様性の本箱」として記者発表し、UNDB-J のウェブサイトに掲載
- ・3/12 より環境省生物多様性センターと地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)において展示を開始
- ・UNDB-J が出展するイベントで展示するため、各出版社に協力を呼びかけ、93 点の作品を UNDB-J 事務局にご提供いただいたところ  
「みどりフェスタ」(4/29@新宿御苑)において展示
- ・「上野の森 親子フェスタ」(5/3～5/5@上野公園)に出展・販売する各出版社に協力を呼びかけ、58 点の作品を UNDB-J ブースに展示し、販売協力

##### (2) 今後の取組

- ・5/23 より「環境 goo」( <http://eco.goo.ne.jp/> ) において全 103 点の作品を紹介
- ・「エコライフ・フェア」(6/1～6/2@代々木公園)、「子ども霞が関見学デー」(8/7～8/8@環境省)等において展示



GEOC での展示



「上野の森 親子フェスタ」への出展



「環境 goo」への掲載  
開発中の画面

## 2. 東北への寄贈について

### (1) 概要

- ・「生物多様性の本箱」の各作品を東北の小・中学校や図書館等に寄贈するなど、生物多様性に支えられる東北復興を支援
- ・東北支援の実績がある公益財団法人 日本自然保護協会(NACS-J)との共同事業として実施
- ・ご支援いただいた企業等には、「UNDB-J サポーター」としてUNDB-J ウェブサイト等に企業等の名称を掲載するほか、以下のようなロゴマークをご使用いただくことができるようにする



は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」サポーターとして「生物多様性の本箱」寄贈プロジェクトを応援しています。

は企業等の名称

### (2) 今後の取組

- ・各出版社にUNDB-J事務局へのご提供(各作品1冊)の協力を呼びかけた際に、本事業へのご協力の可能性について照会したところ、65点の作品について本事業に対する前向きな感触が得られたところ
- ・今後、NACS-Jと詳細について検討した上で、各出版社に協賛を呼びかけるとともに、企業等にも寄付を呼びかける
- ・寄付を拡大するためには、広報や寄贈式の模様など、事業の具体イメージを伝えることが重要であるため、今年度中に1件でも寄贈の実績を作り、寄付を呼びかけるためのツールを作成
- ・なお、東北の寄贈先については、NACS-Jがこれまで培ってきたネットワークを活用するとともに、環境省東北地方環境事務所など現地関係者とも調整

## 国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

### Iki・Tomo パートナースについて（案）

#### 1. 概要

- ・ UNDB-J の活動の趣旨に賛同し、自ら行動する個人、事業者、団体等が会員として参画できる仕組みをつくることにより、国民運動への足掛かりを構築
- ・ 会員には、以下のような会員専用ロゴマークをご使用いただくことができるようにするとともに、UNDB-J の活動状況など様々な情報を提供



は  
国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の  
Iki・Tomo パートナースの一員として  
生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいま

は事業者、団体等の名称。個人の場合は「私」

#### 2. 仕組みづくりの方向性

- ・ データベースの構築には多額の費用と管理の手間がかかることに加え、昨今のソーシャル・ネットワーキング・サービスの普及状況を踏まえ、Facebook を活用する
- ・ 具体には、Iki・Tomo パートナースの Facebook ページを作成し、入会の条件（3 を参照）に賛同していただける方に「いいね！」を押してもらう  
（会員 = 「いいね！」を押した方）
- ・ 会員になったこと（ = 「いいね！」を押したこと）は、会員の「友達」にもすぐに伝わるため、波及効果が期待できる（Facebook の特性）
- ・ 事務局が UNDB-J の活動状況を Facebook ページに投稿することにより、会員にタイムリーに情報を発信する。また、UNDB-J のウェブサイトへ誘導する
- ・ Facebook ページから会員専用ロゴマークを取得できるようにしておくことで、ロゴマークの活用・普及を促進（会員だけがダウンロードできるように設定）

#### 3. 入会の条件

- ・ 「MY 行動宣言 5 つのアクション」等を参考に、生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいる（または今後取り組もうとする）個人、団体等

（例）✓ 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう

✓ 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれる

✓ 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝える

✓ 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加する

✓ エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買う

- ・「生物多様性民間参画ガイドライン」等を参考に、生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいる（または今後取り組もうとする）事業者
  - （例）事業活動と生物多様性との関わり（恵みと影響）を把握するよう努める
  - 生物多様性に配慮した事業活動を行うこと等により、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、持続可能な利用に努める
  - 取組の推進体制等を整備するよう努める
- ・その他、UNDB-J の活動の趣旨に賛同し、自ら行動する（または今後行動しようとする）個人、事業者、団体等

#### 4. スケジュール

- 2月
  - ・UNDB-J 運営部会において、概要や名称（たたき台）について意見交換(2/1)
  - ・UNDB-J 幹事会において、概要や名称（たたき台）について意見交換（2/27）
  - ・UNDB-J 委員・幹事・運営部会構成員に対して、概要や名称（たたき台）についてメールで意見照会。名称については、たたき台の中から選択して頂くほか、新規提案も募集（2/27）
- 5月
  - ・UNDB-J 運営部会において、具体の仕組みづくりや入会の条件等について審議。名称については、委員会に示す案を決定（5/20）
  - ・UNDB-J 委員会において、具体の仕組みづくりや入会の条件等について審議するとともに、名称を決定（5/23）
- 9月
  - ・Iki・Tomo パートナーズを旗揚げ
  - ・記者発表